

(電子メール施行)
農技第1287号
平成29年8月10日

関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

平成29年度病害虫発生予報第4号を発表します。

平成29年度病害虫発生予報 第4号

向こう1か月の病害虫発生予想

作物名	病害虫名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	平年並	平年並
	紋枯病	やや多	平年並
	細菌性病害(もみ枯細菌病・内穎褐変病)	やや多	—
	縞葉枯病	平年並(一部でやや多)	平年並(一部でやや多)
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	やや少
	トビイロウンカ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	平年並	やや少
	コブノメイガ	平年並	やや少
ダイズ	立枯性病害	やや多	平年並
	吸汁性カメムシ類	平年並	やや少
野菜等共通	ハイマダラノメイガ	多	やや多
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並(一部でやや多)	平年並(一部でやや多)

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(8月12日から9月11日までの天候見通し)

平成29年8月10日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】近畿地方	
【降水量】近畿地方	
【日照時間】近畿地方	

凡例: 低い(少ない) 平年並 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>

1週目 近畿地方	
2週目 近畿地方	
3～4週目 近畿地方	

凡例: 低い 平年並 高い

<予報の対象期間>

1か月	: 8月12日(土)～ 9月11日(月)
1週目	: 8月12日(土)～ 8月18日(金)
2週目	: 8月19日(土)～ 8月25日(金)
3～4週目	: 8月26日(土)～ 9月 8日(金)

発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病（穂いもち）】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

現地ほ場の調査では、197ほ場のうち36ほ場(18.3%)で発生が確認されており、一部でやや発病が多いほ場もあったが、全体的に発生は平年並であった。

今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想されており、本病の発生を助長する要因は少ない。穂いもちは平年並の発生で推移すると考えられる。

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

加西場内ほ場の調査では、やや多い発病であったが、現地ほ場の調査では、197ほ場のうち27ほ場(13.7%)と平年並の発生であった。今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想されている。また、水稻気象感応調査では、イネの茎数が多い傾向であるため、株間湿度が上がりやすく、発病の増加が予想されるため注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【細菌性病害】（もみ枯細菌病・内穎褐変病）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

本病の発生は出穂期の高温、降雨に助長される。今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想されているため、発病の増加が予想されるので注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア. 深水管理、多肥栽培は、本病を助長するので、栽培管理に注意すること。

イ. 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

4 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並（一部でやや多）
(2) 予報の根拠

場内ほ場の調査では発生が認められたが、その程度は低かった。現地ほ場の調査では、197ほ場のうち発生がみられたのは15ほ場(7.6%)と平年並の発生であった。今後の気象条件は本病を媒介するヒメトビウンカの増殖に好適と考えられ、県全体とし

ては平年並の予想であるが、西播磨を中心とする同ウイルス保毒虫率の高い地域では、後期の発病の増加が予想される。

5 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

7月下旬の場内および現地ほ場の調査では、発生量は平年並であった。

今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されていることから、ヒメトビウンカの増殖好適条件となるため密度増加が進むと考えられる。

(3) 防除上の留意点

薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

6 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

場内ほ場および現地ほ場の調査とも発生量はわずかであったが、今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されていることから、密度増加が進むと考えられる。

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

7月下旬～8月上旬の場内ほ場および一部の現地ほ場で発生を認めている（現地発生ほ場率3.5%）。今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されていることから、既に発生しているほ場においては、増殖に伴い坪枯などの被害につながる可能性もあるので注意する。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

朝来市、加西市、南あわじ市の県下3ヵ所の予察灯および場内ほ場で、カスミカメ類の発生を確認している。特に南あわじ市の予察灯では、一時的だが多数の誘殺がみられた。今後、多くの水稻で出穂期を迎えると、水田への飛来がさらに増加すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア．斑点米カメムシは、畦畔、水田内のイネ科雑草の存在によって発生が多くなるので雑草管理を徹底する。但し、出穂前後に畦畔雑草を刈り取ると、かえって水田内にカメムシを追い込むことになるので留意する。

イ．穂揃期の薬剤防除も効果的である。薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

9 【イネツトムシ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

7月下旬～8月上旬の現地ほ場および場内ほ場での発生はやや少ない状況である。
今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されており、さらに、生育した水稻がイネツトムシ幼虫のエサ植物として好適な状態になるので、密度増加が進むと予想される。

10 【コブノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

赤穂市、三木市の現地ほ場で幼虫の加害痕をわずかに確認している。
今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されており、さらに、生育した水稻がコブノメイガ幼虫のエサ植物として好適な状態になるので、密度増加が進むと予想される。

ダイズ

1 【立枯性病害】（茎疫病、黒根腐病）

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

場内ほ場では発生は認められていないが、現地ほ場で発生が認められている（発病ほ場率14.2%、21ほ場調査）。今後の気象条件は、気温は高く、降水量は平年並～やや多いと予想されており、やや多く発生すると考えられる。

- (3) 防除上の留意点
ア．本病（茎疫病、黒根腐病）発生は排水が悪いと助長されるので、排水対策を講じる。畝間灌水を行う場合は、停滞水とならないよう留意すること。
イ．薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【吸汁性カメムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

場内ほ場では発生は認めていないが、現地ほ場で少数ながら発生が認められる。
今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されており、カメムシ類の繁殖に好適な環境になると考えられる。

野菜等共通

1 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予報の内容 発生量：多
(2) 予報の根拠

8月上旬の加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査では寄生シュート（花枝）

率は49%（過去5年間の平均値15.2%）と高かった。今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されており、本種の増殖に好適であるため、今後、さらに密度が増加すると考えられ、被害に対する注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア. 本種は特異的にアブラナ科野菜を加害する。

イ. 幼虫が生長点を加害するため、被害が大きい。被害を確認してからの薬剤防除では手遅れとなる。本種の発生が懸念される場合は、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

ウ. 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

(4) その他

近日中に病害虫発生予察注意報を発表予定である。

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

加西市におけるフェロモントラップ調査では、6月以降の誘殺数はほぼ平年並で推移している。今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されている。本種の増殖に好適であるため、秋作の野菜類やダイズでは、発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア. 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

イ. 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

加西市におけるフェロモントラップ調査では6月以降の誘殺数が平年を上回り、8月に入ってから増加の傾向が続いている。今後の気象条件は、気温は高く推移すると予想されており、本種の増殖には好適である。秋作の野菜類や花き類では、今後の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

別途、平成29年度病害虫発生予察防除情報第1号を発表しているので、参照のこと。

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>

果樹共通

1 【カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並（一部でやや多）

(2) 予報の根拠

朝来市、加西市、南あわじ市の3カ所に設置した予察灯でチャバネアオカメムシの誘殺数は平年並であったが、朝来市の予察灯では、クサギカメムシの誘殺数がやや多かった。また、フェロモントラップでのチャバネアオカメムシの誘殺数は、加西市では、やや少ない傾向が継続しているが、県北部地域では、7月に入り平均約5頭/日の誘殺数がみられている。今後、県北部地域では、果樹カメムシ類がやや多く推移することが予想され、被害に注意する必要がある。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>)